

新宿区更生保護女性会
会長 坂本悠紀子

略歴 1940年生まれ
同志社大学卒業（文学部社会学科社会福祉学専攻）
東京・新宿区在住
保護司委嘱 昭和53年9月
更生保護女性会会員歴 昭和53年5月

更生保護女性会と保護観察所

保護観察所には、更生保護女性会が全国的に同じ目的を持って活動できる様に、役員会や研修会を通して指導・援助・協力をしていただいています。また、施設慰問の調整や保護司会との活動をサポートしていただいています。

更生保護女性会の活動

保護司として27年の間に保護観察の対象者を多数担当したことが、女性会の活動に役立っています。

新宿区更生保護女性会の活動は、平成13年に会長を引き受け、以来綱領にしたがって活動を進めています。

更生保護女性会は、更生保護を目的としたボランティアです。自分たちの会費で運営し、区の援助がない代わりに、ほかの会と違って自分たちの決めた目標により、充実した活動ができることです。

最初に始めた事は、東京連盟で出す「子育て支援」のための原稿集めでした。いままで、これとって幼稚園・保育園との連携をとったことがなかったので、はじめて区内全部の幼稚園・保育園また、民間の託児所を調べ、会員に縁があったところを調べました。そして原稿の依頼をするため、更生保護女性会の活動について簡単な案内と活動報告を持参し、お願いを始めました。原稿を回収したところ、更生保護女性会の活動を知っていた施設が、ありませんでした。

会を知っていただくため、北区で出されたアンケートに、新宿区更女で新たな質問事項を加えて、区内の子育て中の保護者宛て、1200枚を配布し75%を回収し、回答を集計して同じ幼稚園・保育園にお返しいたしました。

アンケートの結果、他の地区との違いは、母子家庭のほか父子家庭の問題、また、祖父母など両親以外の子育て中の方の質問が多く来た事でした。アンケートの質問に対する回答で、自分の子供がかわいくないと答えていた(約6%)家族があったことは驚きで、私たちにできる事はそういう家族の相談相手になることと考え、地域で定着した活動、また、子育て支援の情報を知らせるための手引書の作成・配布を決めました。平成14年度から、毎年「子育て支援の手引き」を発行し、区民に無料で配布しています。これは、都・区・社会福祉協議会・民間の情報を一冊にしたものです。

配布の方法は、区内全幼稚園・保育園・無認可保育園などに出来たつながりを利用して見本を届け、改めて必要な冊数を後日お届けする事にして、年2回以上連絡を取り合っています。

それらの年間行事を行う中で、中学生の薬物乱用が目につきました。

新宿区の更生保護女性会の会長は、東京都の「薬物乱用防止指導員」として、講習を受けるようになったからです。

私が保護司として担当していた薬物利用者の家に集まっている中学生を見て、少年たちに薬物を勧められても断る勇気を持って欲しいという悲願を果たすため、講演会を行いました。

区内の全町会の協力でポスターを張りましたが、問題になるような子供は殆ど来ませんでした。

テレビや新聞で何人もの中学生・高校生の薬物使用が報道されていたのを見て、中学校長に手紙を出し、一校ずつ説明に行き、学校での講演会をさせていただいています。活動で力を入れている「薬物乱用防止出前活動」です。

出前活動では区内の中学生3000人中870人に薬物乱用防止講演会を行い(4校)、各中学校でアンケートを子ども達からもらい、すぐに集計して次の日には校長先生にお礼に行く時に報告をさせていただいています。

ほとんどの中学校で生徒の中に薬物に対して使った人を知っている・興味があるという少数の生徒がいるという結果がわかり、警視庁の少年センターと地域の警察署に結果を報告して講演会にも協力していただいています。

区内にある歌舞伎町での薬物の販売は目を見張るものがあり、影響を受ける可能性があることを危惧し、区長にも訴え、地元の警察や税関の出張所・又区議や都議の方、商店街も巻き込んで、都の薬物乱用防止協議会・区と私達の会の一体とした活動が行われ、撲滅運動の真剣な努力の成果が見られて、27箇所くらいあった売り場は、現在7箇所に減っています。今も「薬物乱用防止出前活動」と「子育て支援の手引きの配布」は継続事業です。

目標を2年ごとに変えることで、会員の活動がマンネリ化することを防いでいます。

「子育て支援活動」「薬物乱用防止出前活動」、今年からは「元気な子供を育てよう」が目標です。

今年行った勉強会は、「犯罪被害者に対する地元の協力について」や、「少年非行の問題について地元でできる事」という勉強会、施設見学会などで、活発に活動しています。勉強会・見学会の後、出席者から感想を頂き特集号を発行、今後の活動の参考にしています。

当会の会員ばかりでなく、地域の諸団体にも広報し、興味を持っていただくため、料理教室・フラワーアレンジメント教室・手芸教室など、お誘いしています。

自分たちが動かななくては、活動は出来ません。

今年は創立45年のため、講演会、音楽会を計画しています。

更生保護女性会の活動は、保護司のように単独の対象者に対する援助ではなく、綱領を守って行えば、地域に合った活動が出来る自由さがあると思います。アンテナを広く持ち、他団体の協力を得て活動が出来るよう日頃から地域で協働して活動できる基盤作りが大切と感じて、努力しています。

45年の歴史があっても、今までの保護司のように地域での活動を公表できない部分が更生保護女性会にもありましたが、現在は、更生保護会に対する活動など特殊なものを除けば、地域での犯罪予防活動は、協力を得られるのではないかと考えています。足を運んで、仲良くなる事が一番だと思います。

更生保護女性会活動の難しさ

今では、区役所や都庁に相談してもまずまずの反応があり、活動を認めてきていただいています。区役所に関係ある団体では子育ては自分のところが先に取り組んでいる活動だとか、薬物乱用防止の講演会は、子ども達が薬物を詳しく知る事によって、かえって乱用が発生するのではないかと危惧する方もあります。また、活動資金の問題もあります。

私たちはそれらを解決するために、できるだけ多くの団体に、私達の行事についてご案内し、知っていただくことを始めています。

資金についても、地域の方に会の活動を説明し、殆どの印刷物の用紙は寄付をしていただいています。また印刷も、製本も、自分たちで作ることでお金をかけず、多くの方に広報できるよう地域センター（10箇所）に広報誌、手引き書、行事の案内をおいていただけるようになりました。

会の活性化をはかるために、眠っている会員（参加されていない方）に活動を広報することから始めています。

新宿区は他の地域と比べて遅れている部分があります。役員の協力で克服するための努力を始めています。